

<2014 年度修学旅行研究会開催報告>

日 時:2014 年 11 月 20 日(木)

場 所:名古屋市都市センター会議室

発表校:名古屋市立笹島中学校

テーマ:「自然と人々の暮らしの関わりを学ぶ修学旅行
～立山黒部、富山、氷見での活動を通して～」

【学校の特徴】

- ・名古屋で唯一の小中一貫教育校
- ・全学年単学級の少人数
- ・帰国児童生徒受け入れ校
- ・学区の 200 年の歴史をもつ山車を校内に常時保管

【修学旅行先の変更の経緯と決定】

3 年前までの関西方面の見直し・検討

→自然環境に目を向ける、様々な地域での暮らしや産業を知る、少人数という特色を生かす。
訪問先の決定・・・雄大な自然が味わえる、自然と人々の暮らしの関わりを学ぶことができる、少人数で実施可能 → 立山アルペンルート、富山・氷見方面

【修学旅行の日程】

- 1 日目 名古屋駅 → 信濃大町駅 → 扇沢 → 黒部・立山アルペンルート → 黒部ダム
→ 雪の大谷ウォーク → ホテル
- 2 日目 ホテル → 立山博物館 → 富山市内分散・課題追究学習 → 氷見・民宿
- 3 日目 民宿 → 釣り体験・魚さばき体験学級別研修 → ひみ番屋街 → 学校

【主な活動】

- 1 日目 立山黒部アルペンルート 豊かな自然を実感
- 2 日目 課題追究学習 2?4人の班で施設、会社、商店等で調査
- 3 日目 氷見での漁村体験 民宿でのおかみさん体験、漁港での釣り体験や魚さばき体験

【事後活動】

修学旅行発表会 1, 2 年生に向けて追究課題の発表を行う。

【参加者からの意見】

- ・分散体験の資料は、下見が大切で、詳しく下調べをする必要がある。
- ・雨天案は、綿密に、危険に対応できるようにすることが大切である。
- ・分散学習では、自校の生徒が、旅行先の地域で何を学ぶのかという課題が大切である。

平成 27 年度は、稲沢市立大里東中学校の事例発表を予定している。

自然と人々の暮らしの 関わりを学ぶ修学旅行

～立山黒部、富山、氷見での活動を通して～

教諭 加藤 友通

●学校紹介

本校は、名古屋市の中心地たる名古屋駅、名古屋国際センターのほど近くに位置し、平成二二（2010）年四月に開校した近代的な校舎一体型（地上六階・地下一階建）の名古屋初の小中一貫教育校で、九年間を見通した一貫性のある教育を推進している。また、学校行事では小中合同で、入学式、体育祭、文化祭などを開催し、年齢を超えた交流活動を展開している。また、平成二四（2012）年度にユネスコスクールに認定された。



校舎外観

School Data

【創立】平成22（2010）年
【教育目標】学ぶ力を身につけ、国際社会に生きる児童・生徒の育成
【全校生徒数】82名 【学級数】5学級
【教職員数】21名

実施要項

- 行き先と時期 富山県（黒部・立山、氷見）
平成26年5月7日（水）～9日（金）
- 実施学年と引率者数 第3学年 2クラス 17名 引率者数 6名
- 日程概要

【一日目】5月7日（水）
名古屋駅—信濃大町駅—扇沢—黒部・立山アルペンルート—黒部ダム—雪の大谷ウォーク—弥陀ヶ原ホテル

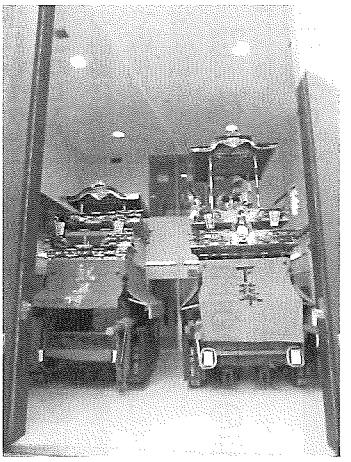
【二日目】5月8日（木）
弥陀ヶ原ホテル—立山博物館—富山市内分散・課題追究学習—氷見へ移動—
民宿での分宿

【三日目】5月9日（金）
各民宿—漁港での釣り体験・魚さばき体験—ひみ番屋街—学校

一 はじめに

本校がユネスコスクールに認定された経緯は、「伝統の街から世界の人々へ、伝えあい、認めあい、高めあう対話活動」というテーマで、国際教育と郷土学習の推進を総合的な学習の中心活動として長年取り組んできた成果といえる。

国際教育の推進については、帰国児童・生徒の受入校という特色を生かし、帰国児童・生徒から在留国の様子や文化を聞いたり、調べ学習を行ったりしている。また、JICAや名古屋国際センターなどから外国人の方を講師として招き、様々な国の文化や生活の様子、外国語などについて学習するとともに、自国の文化への理解を深めている。このような活動を通して、外国の文化をもつ人々の価値観を知ったり、他者の尊厳と価値を認める人間性を育んだりして、児童・生徒の多文化共生の国際感覚を養っていくことを目指している。



校内に常設されている山車

●重点を置いた活動

様々な地域に住む人々との交流を大切に ～自然体験や課題追究学習を通して～

また、郷土学習の推進には、本校独自の施設も大きく役立っている。本校には、学区内に保存されている山車三輛のうちの二輛が常時保管されている。山車やそれに関わるお囃子やからくり人形について、それらの継承に力を注ぐ地域の人々を講師として招き、お囃子演奏を体験させていただいたり、山車に関わる歴史などについて学習したりしている。こうした活動を通して、地域への愛着を高め、よりよい郷土の創造に向けて自己の生き方を考え続ける姿勢と他者の尊厳を認める人間性を育んでいる。

二 旅行先変更の経緯とねらい

3年前まで、本校は関西方面への修学旅行を行っており、体験学習を中心としたものであった。しかし、総合的な学習の時間数の削減を見据えて、学習指導要領に示された宿泊行事のねらいと内容に則り、かつ、少人数ならではの本校の特色を生かした宿泊行事を目指して、訪問先の変更を行った。

いくつかの候補の中で、立山黒部アルペンルート、富山市の産業、氷見町の漁業などを通して、雄大な自然を味わい、そこに暮らす人々との暖かな交流をすることを最終案とした。それは、海と山の結び付き、自然と人々の暮らしの関わりについて、体験しながら学ぶことができる点と、一年生の職場体験、二年生の稲武野外学習や上級学校訪問、総合的な学習の時間に学んだことを踏まえて、自然

環境や他地域との共存・共栄や生き方について考えを深めることができ、その後の進路決定にも好影響を与える点からである。

三 旅行先変更に伴う問題点

旅行先を変更するに当たり、旅行会社との相談を行った。しかし、どの業者も修学旅行として立山黒部方面を扱った実績がなく、手探りの状態であった。そんな状況の中で、該当学年担当の教員が見学を行うことになった。ルートは、JR特急やバス、ケーブルカーなどの交通機関をいくつも乗り換える必要があるものであった。幸いにも本校生徒は単学年で少人数であることから、移動にあまり手間はかからない。しかし、実際にルートを辿ってみると、予定の時間とは大きくずれることが分かり、タイムテーブルは再検討を余儀なくされた。

また、交通機関の本数も限られているため、うまく乗り継ぐことができる交通機関を選ぶ必要があることが分かった。

次に、富山の人々の暮らしや産業を調べるために、生徒たちが訪問することができる施設を見つけなくてはならない。下見では、可能性のある場所をすべて訪問し、目的に合ったものであるかどうか教員が選定した。このようなことは、修学旅行を多く受け入れている地域では、すでにリストアップされたものがあるのだが、当時は目的に合ったものがなく、旅行会社や行政の協力も得ながら、自分

たちで作り上げねばならなかった。
このような問題点を乗り越え、実際に生徒の活動に至ることができるような下地を築いていった。

四 修学旅行に至るまでの活動

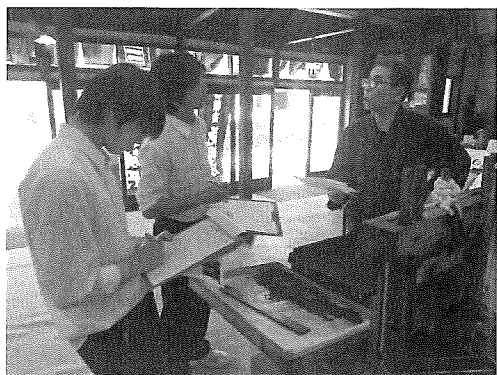
(一) スローガン決め

本年度の三年生は、富山の特徴を調べる中で、ものづくりに注目していた。愛知県もものづくりによく知られており、共通するものを感じていた。また、漫画「ドラえもん」の作者、藤子不二雄氏の出身地であることもわかり、次のようなスローガンを立てた。
「富山でドラえもん作りましょう」

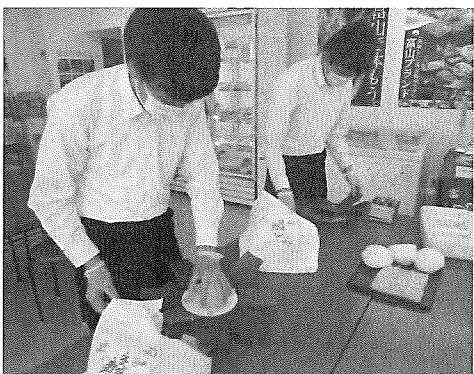
(二) 課題追究学習の課題設定および分散学習の訪問先の決定

例年、修学旅行は総合的な学習の中に位置づけている。総合的な学習の柱の一つである郷土学習と関連させ、他の地域の郷土を調べるところを課題とし、これを追究学習として一人一課題を立て、行っている。課題は次の五つの分野の中で設定させた。

- ① 産業・業で有名な富山にはそれに関する産業が多くある。愛知のものづくりと比較することが可能である。
- ② 文化・本校学区が山車に関わる伝統文化をもっていることから、他の地域文化にも、生徒は関心が高い。
- ③ 交通・富山には路面電車が今もあり、生



訪問先でインタビューする生徒



マス寿司づくりを体験する生徒

資料館、池田屋安兵衛商店、民俗民芸村、イトレーブル株式会社、富山地方鉄道、長慶寺、四季防災館などである。
訪問場所では、職員の方にインタビューをしたり、資料を調査したりした。事前に、課題について多くの時間を使って調べてからの実地調査であったため、スムーズに学習を進

追究のテーマ
私たちにとっての業と富山県民にとっての業
とやま人形の成り立ち
長慶寺と五百羅漢について
富山の業売りの特色
富山の出土品
富山県の昔と現在の雪の対策
美しい衣類の繊細さ
富山の電車の不思議
富山の人々の生活の移りかわり
業と富山の産業のつながり
富山地方鉄道の車両
四季の災害と災害の対応の仕方
危ない！身の回りで起こる四季の災害
富山県の産業について
長慶寺
鱒寿司の作り方とおいしさの秘訣

が多くあり、考古学資料を見ることができている。また、雪が多い地域であることから、様々な工夫がされていることに気付くことができる。また、遺跡

⑤ 防災・名古屋では地震に関する防災が中心だが、気候の違いから、雪崩など雪に関する防災を知ることができる。

そして、生徒たちは一人ずつ一つの課題を設定し、課題について調べることができる場所や施設を決め、分散学習の中で訪問することとした。

五 活動の様子

(一日目) 立山黒部アルペンルート

初日は、立山黒部アルペンルートを通る行程である。都市を離れ、豊かな自然を実感する旅とすることが目的である。
名古屋駅からJR特急を乗り継ぎ、信濃大町駅へ向かう。さらに、路線バスを四回乗り

めることができた。また、マス寿司づくりを体験させてもらった班もあった。

富山の人々と触れ合い、市街を見学することで、富山の特色に気付くことができた。

(二日目) 氷見での漁村体験

二日目の宿泊は氷見漁港の民宿で行った。民宿では泊まるだけでなく、「おかみさん体



魚さばき体験をする生徒

験」ができる。民宿の方のお手伝いをしながら、富山での暮らしの一端に触れることができた。また、氷見は有名な漁港でもある。漁港での釣り体験や魚さばき体験をすることができた。

(事後活動) 修学旅行発表会

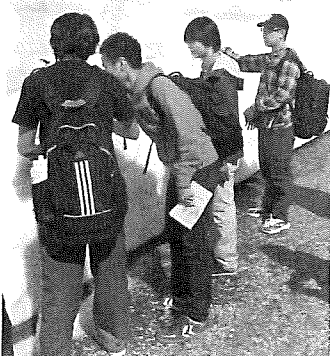
修学旅行後、課題追究学習のまとめとして、発表会を行っている。一、二年生に向けて、三年生が発表を行う。

活の足となった。また、雪が多い地域であることから、様々な工夫がされていることに気付くことができる。また、遺跡

④ 歴史・前田利家と関わりがある長慶寺があることから、歴史のある町である。また、遺跡

継ぎ、ロープウェイ、ケーブルカーも途中で使われて、宿泊先がある弥陀ヶ原まで進む。少人数での移動であったので、無事行程を進ることができた。その途中には黒部ダムがある。紺碧な水をたたえるダムの水面上には周りの山々が映り、その美しさは息をのむほどであった。

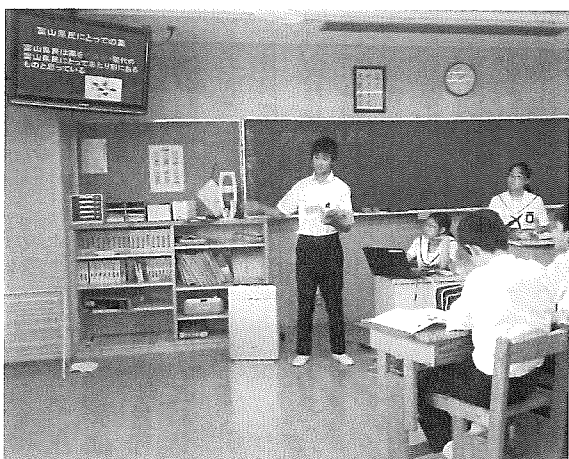
また、食堂では雪の大谷ウォークとしてダイナミックな雪の廊下を歩くことができた。生徒たちは、立山黒部の自然の雄大さを目の当たりにすることができた一日であった。



雪の大谷ウォーク

(二日目) 課題追究学習

富山市内で生徒は二人から四人の班で分散し、課題追究学習を行う。訪問場所は広貫堂



修学旅行発表会の様子

発表をする三年生は、下級生にも分かりやすく説明することを学び、下級生は自分たちも行くことになる修学旅行について学ぶことができた。

六 終わりに

富山への修学旅行では、壮大な自然を実感することができ、自然が多く残る地域での暮らしに触れることができた。この修学旅行の課題は、費用が高いこと、実施時期が、ゴールデンウィーク明けとなり、準備期間を十分に設けることができないことである。

この修学旅行も三年間行ってきた。今後、ユネスコスクールとして、修学旅行をどのような位置づけにしていくなかで改めて検討し、計画する必要がある時期が来ている。